



新型コロナワクチン追加接種の勧め！ ～ なぜ追加（3回目）接種が必要なのか？ ～

2019年12月に中国湖北省武漢市から始まった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）ですが、人とウイルスとの戦いは、2020年はワクチン接種とウイルスの変異との戦いでした。デルタ株が抑え込めたと思ったのも束の間、新たにオミクロン株が出現し2022年はワクチン追加接種が感染予防には必須となっております。昨年暮れには経口の抗ウイルス薬が承認されたため、今年はウイルスに対する戦いに新たな武器が増えました。今年の初夢を紹介したいと思います。「新型コロナウイルスは2022年初頭から変異により弱毒化し、感染力は強くてもワクチンの追加接種で、夏休みまでには社会全体としてある程度感染を制御出来るようになり、旅行も制限なく行ける様になっております。また、たとえ感染したとしても、適切な経口薬が使えるようになったため、インフルエンザよりも楽だったと笑っていえる時がやってきました。」



この初夢を正夢にするためにも、多くの方が3回目の追加接種を受ける事が大切です。ワクチン接種をためらってみえる多くの方に厚生労働省のQ&Aを紹介します。

【ワクチン接種に関するQ&A】



Q：なぜ、追加（3回目）接種が必要なのか？

A：日本で接種が進められているワクチンは、高い発症予防効果等がある一方、感染予防効果や、高齢者においては重症化予防効果についても、時間の経過に伴い、徐々に低下していくことが示唆されています。このため、感染拡大防止及び重症化予防の観点から、初回（1回目・2回目）接種を完了したすべての方に対して、追加接種の機会を提供することが望ましいとされています。

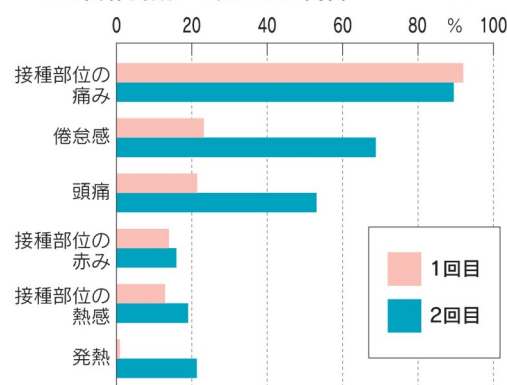
Q：初回（1回目・2回目）接種とは異なるワクチンを使用（交互接種）しても大丈夫でしょうか。

A：追加接種に使用するワクチンは、初回接種に用いたワクチンの種類に関わらず、mRNAワクチン（ファイザー社のワクチン又は武田/モデルナ社のワクチン）を用いることが適当であるとされています。

Q：追加（3回目）接種ではどのような副反応がありますか。2回目より重いのでしょうか。

A：海外の臨床試験の結果では、ファイザー社のワクチン及び武田/モデルナ社のワクチンいずれの場合も、2回目の接種後と比較して有害事象の発現傾向は概ね同様であると確認されていますが、リンパ節の腫れなどについては、初回（1回目・2回目）接種時と比較して、発現割合が高い傾向にありました。国内の調査結果（中間報告）でも、ファイザー社のワクチンにおける、追加接種から1週間後までの有害事象の状況は、2回目の接種後とほぼ類似していましたが、腋窩痛（わきの下の痛み）などについては、3回目の接種後の方が、発現頻度が高い傾向が見られました。

主な副作用疑いと発生した割合（ファイザー製）



当院では2月1日から追加接種（ファイザー社のワクチン）を開始予定です。接種券が届いたら、電話でご予約頂けます。